



## 税金あれこれ(80) 消費税のインボイス制度④

### インボイス制度の誤解や懸念に対する考え方

自民党の中小企業・小規模事業者政策調査会インボイス対策小委員会によれば、インボイス制度の事務負担等に関する誤解や懸念に対する考え方を次のように示している。

立場	誤解・懸念	考 え 方
売手	請求書等の様式を変更し新たにインボイスという複雑な書類の作成が必要か?	現在使っている請求書等に既に税率や税額の記載があれば登録番号のみの追加で対応可能。市販の手書きの領収書・請求書やインターネットで無料配布されているフォーマットを利用することも可能。軽減税率制度に対応したレジであればほぼ全ての機種がインボイス制度への対応が可能。
売手	交付したインボイスの写しの保存が新たに必要?	必ずしも交付したインボイスそのものの写しである必要はなく、請求書等の元になったデータやレジジャーナルの保存でも対応が可能。手書きであれば複写・スキャンしたものでよい。
免税事業者	免税事業者のまましていると消費税相当額 10%が値引かれてしまう?	一方的な値引きは関係法令により適切に対処。また免税事業者との取引については、影響が緩和されるように経過措置により制度上で配慮されている。
免税事業者	課税事業者になった場合、売上の 10%相当もの納税が必要?	課税事業者になれば仕入税額控除が可能となるため、納税額は売上の 10%相当額より小さくなる。簡易課税制度を利用した場合は業種ごとのみなし仕入率に応じて控除が可能。
買手	仕入先が免税事業者かどうかや、受領した請求書等の登録番号の有無の確認が必要か?	標準化されたデジタルインボイスの普及促進を図りバックオフィスの生産性の向上を後押しする。継続的な取引関係のある仕入先や、一定規模以上の仕入先であれば「相手が免税事業者か」や「請求書に登録番号があるか」を確認する必要性は限定的。

また免税事業者との取引に関するアンケート結果（建設業）によれば、条件を変えずに取引を継続が 46%、取引価格の変更を検討が 26%、課税事業者になるよう説得が 19%と、免税事業者の取引上の影響も懸念されている。

株式会社ウイング 崔 正博

## 燃料カードの価格表【2022年5月分】

AMSカード ※共通利用可能		ENEOSビジネスカード		全国共通・燃料カード ※カードはメーカーごとに発行			
油種	ENEOS・Shell・COSMO	油種	ENEOS	油種	COSMO	ENEOS	宇佐美
レギュラー	157.0円	レギュラー	156.5円	レギュラー	152.4～154.4円	151.5～153.5円	150.1～152.1円
ハイオク	167.0円	ハイオク	166.5円	ハイオク	162.4～164.4円	161.5～163.5円	160.1～162.1円
軽油	138.0円	軽油	132.5円	軽油	125.8～127.8円	130.0～132.0円	128.2～130.2円
【価格は税抜】		【価格は税抜】		【価格は税抜】			
全国共通・燃料カード ※カードはメーカーごとに発行							
油種	ENEOSウイング	FLEX&TRUST カード(Shell)	TRUST&FLEX カード(出光)	エネクスフリート			
レギュラー	149.0～151.0円	151.6～153.6円	152.2～154.2円	147.4～149.4円			
ハイオク	159.0～161.0円	161.6～163.6円	162.2～164.2円	157.4～159.4円			
軽油	123.9～125.9円	130.1～132.1円	125.4～127.4円	125.4～127.4円			
【価格は税抜】							